

日本都市社会学会ニュース

No. 67 (2004.3.25)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部社会学科 後藤研究室内

E Mail: UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp

FAX: (03) 5317-9423

(郵便振替口座: 00140-4-703976)

ホームページURL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/urbansocio/>

日本都市社会学会 第22回大会

歓迎の言葉

大阪市立大学 谷 富夫

第22回日本都市社会学会大会を大阪市立大学がお引き受けすることになりました。沢山の皆様のご来阪、ご来学を心からお待ちしております。

関西地方で大会が開催されるのは、じつに11年ぶりです。関西ではこれまで4回開催されていますが、大阪市内は今回が初めてです。大阪市は260万都市ながら、関西以外の皆様には案外なじみの薄いまちかもしれません。

大阪は、とくに歴史、経済、文化、そして国際性などの面でとてもユニークな都市といえると思います。しかし、例の「お笑い」だけが突出して全国に情報発信されることによって、大阪がなかなか立体的に理解されていないと感じている大阪人も少なくないようです。もちろん「吉本」や「USJ」もおすすめコースではありますが、各種博物館・美術館や有名寺社はもちろん、寺内町の町並み、インナーシティ、町工場群、エスニック・コミュニティに近郊生駒の神々と、「フィールドワーク」をご希望の向きにもきっとご満足いただけるでしょう。

大阪市立大学の歴史は、今から約120年前の1880年、「大阪商業講習所」の開所に遡ります。その後、関一市長の時代、1928年にわが国最初の市立大学として「大阪商科大学」が創設され、さらに戦後の1949年、今の名称の総合大学に生まれ変わりました。現在は9研究科・8学部で約1万人の学生が学んでいます。関市長の建学の精神を受け継ぎ、また大阪市内に立地する唯一の総合大学であることを活かして、「都市型総合大学」の新しいあり方を大学基本計画の軸に据えています。文学研究科が一体となって推進中のCOEプログラムの名称も、「都市文化創造のための人文科学的研究」。これに社会学教室も参加し、新しい「都市型総合大学」の実現に向けて一翼を担っています。

大阪市立大学社会学教室の都市研究には長い歴史があります。中島龍太郎、大藪寿一、山本登（以上故人）、吉井藤重郎などの諸先生が、大阪をフィールドとする都市問題研究をリードしてきました。大藪先生はまた、本学会の設立発起人の一人でもありました。近年では、今春退任される森田洋司先生を中心とするホームレス調査が全国的に反響を呼んだところですが、

そんな本学の教員に会員が私一人というのは意外に思われるかもしれません。しかし、PD、DCなどには頼もしい会員が6、7名います。行き届かないところも多々あるかと存じますが、みんなで力を合わせて精一杯のおもてなしをさせていただこうと張り切っていますので、どうぞお楽しみに。

1. 日本都市社会学会 第22回大会開催について

期 間 2004年9月4(土)～5日(日)

会 場 大阪市立大学 杉本キャンパス (学術情報総合センター10階)

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

7～8頁の案内図をご参照下さい。

大阪市立大学のホームページ URL: <http://www.osaka-cu.ac.jp>

2. 交通・宿泊の案内

大会会場となる大阪市立大学杉本キャンパスは、JR阪和線の「杉本町駅」から徒歩5分の所にあります。地下鉄御堂筋線の「あびこ駅」も最寄駅の一つですが、徒歩で約20分かかりますので、「杉本町駅」をご利用いただいた方が確実です。「杉本町駅」は、JR大阪環状線または地下鉄御堂筋線の「天王寺駅」でJR阪和線の各駅に乗り換えて約10分、「天王寺駅」から6つ目の駅です。新幹線をご利用の方は、「新大阪駅」で地下鉄御堂筋線に乗って、「天王寺駅」で阪和線に乗り換えて下さい(快速ではなく、各駅です)。**「新大阪駅」から杉本キャンパスまでの所要時間は、約1時間です。**

関西国際空港からですと、JR関西空港線(南海電鉄ではありません)の「関西空港駅」から関空快速に乗車し、「堺市駅」で各駅に乗り換え、「杉本町駅」で下車。**空港(関空)から杉本キャンパスまでの所要時間は、約1時間です。**なお、伊丹空港からですと2時間はかかりますので、関空をご利用いただいた方がよろしいかと思えます。

宿泊は、天王寺(阿倍野区)周辺、都心部でしたら御堂筋線沿線の難波・心斎橋・梅田周辺をお薦めします。関空寄りの堺市や岸和田市でも良いでしょう。以下、主要な宿泊案内/予約のポータルサイトを紹介しておきますので、ご希望に沿ったホテル/宿を探していただければ幸いです。

宿サイト	http://yado.st/
旅の窓口	http://www.mytrip.net/
楽天トラベル	http://travel.rakuten.co.jp/
イサイズじゃらん	http://www.jalan.net/
ベストリザーブ	http://www.bestrsv.com/
宿泊の王様	http://www.hotel-king.com/
比較.com	http://www.hikaku.com/kokunaihotel/
一休.com	http://www.ikyuu.com/
玉っち	http://www.tabitama.net/
好きです旅行	http://sukidesu.cool.ne.jp/yado/

(学会事務局)

会員の皆様へのお知らせ

1. 企画委員会と国際交流委員会の委員補充について

第3回理事会で、下記のお二方に委員を委嘱することになりました。

【企画委員会】早川 洋行(新任)

【国際交流委員会】新田目夏実(留任)

2. 自由報告の募集

申込み方法が変わりました！

第22回大会での自由報告を募集します。

2003年10月発行の学会ニュースNo.66でもお知らせしましたが、企画委員会及び理事会では、大会前に個別の発表内容を把握していた方がよりよい議論を展開できるなどの理由から、大会当日に冊子体の『自由報告要旨集』を配布する方式から、自由報告要旨を大会前の学会ニュースに掲載する方式に切り替えることを決定しました。そのため今年度の自由報告申込み及び自由報告要旨原稿の提出締め切りが例年より1ヶ月ほど早まることになります。皆様のご理解とご協力をお願いします。報告申込みと報告要旨原稿提出の要領は、以下の通りです。

(1) 自由報告の申込み（締め切り：5月10日必着）

報告タイトル、報告概要（100～200字程度）、使用機材の有無、報告者氏名・所属、連絡先（住所・電話番号）を明記し、5月10日(月)午後6時までに事務局（UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp）宛にE-mailで申込んで下さい。なお、機材の使用については、会場の都合により不可能となる場合もあります。また、申込み締め切りを過ぎたものについては一切受け付けないことになっています。

(2) 学会ニュース No.68 掲載用の自由報告要旨原稿の提出（締め切り：6月10日必着）

自由報告を申込んだ方は、自由報告要旨原稿を以下の要領で、6月10日(木)午後6時までに事務局へE-mailでお送り下さい。

報告タイトル、報告者氏名・所属を明記した上で、本文を1000字以内にまとめ（厳守）、それらを保存したファイルを学会事務局（UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp）宛にE-mailに添付してお送り下さい。ファイルは、原則としてテキスト形式とします。Microsoft Windowsを基本ソフトとするパソコンで作成したものに限り、「Microsoft Word」形式でも結構です。

「報告の要旨/サマリー」を会員に事前にお知らせすることを目的としていますので、図表は入れ込まず、文章だけにするようお願いいたします（学会ニュース1頁に2報告の要旨を掲載します）。

この要領に反し、本文が1000字以上であったり、図表が入っている場合は、訂正をお願いすることになります。また、期限内に提出されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意下さい。大会当日にレジュメ/資料を配付する場合は、各自で別途ご用意下さい。

<自由報告申込みと報告要旨原稿>

締め切り：報告申込 5月10日(月)午後6時 / 要旨原稿 6月10日(木)午後6時

申込/提出方法：いずれもE-mailによる

申込/提出先：いずれも学会事務局 UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp

3. 企画委員会報告

委員会では、第22回大会で、開催校の谷富夫先生を中心に大阪を基盤とした「都市空間に働く<権力>作用と人間」のシンポジウムおよび、学会シンポジウムとして「住宅政策と都市社会学」を開催することが決まりました。前者のシンポジウムは、大阪市立大学のCOEとの共催で公開シンポジウムとなります。双方とも、発表者、討論者、司会者の皆さんにより順調に準備が進んでおります。しかも、一昨年以来、隣接領域との連携、政策科学との関連性というテーマも引き続き継承した形となっております。自由報告に関しては、例年より申込み日時が早まり、報告要旨の提出が変更されることを確認しました。お間違えのないようにお願いします。

（常任理事 田中重好）

(1) 一般公開のシンポジウム(9月4日午後/大阪市立大学 COE との共催)

都市空間に働く < 権力 > 作用と人間

【趣 旨】

大阪を深刻な不況が覆い、失業率も近年はずっとワースト2である。これは、大阪周辺の工住密集地帯の経済状況と無関係ではない。不況はまた、大阪のインナーシティをより深刻な状態に陥れてもいる。

本シンポジウムでは、大阪都市圏の周辺部とインナーシティに焦点を当て、都市化過程における < 権力 > 作用の分析、 < 権力 > 構造の中を生きる人間行為の意味理解、および それらの空間論的解読と政策提言をめざす。本シンポジウムのねらいは、大阪を「実験室」として、中心と周縁、中上層と下層、体制と運動など、ダイナミックな関係を視野に入れた、より普遍的でかつ幅のある議論を仕掛けることにある。

【報 告】(タイトルはいずれも仮題)

1. 西村雄郎(広島大学総合科学部助教授)
「インナーリングエリアの再編と住民生活の変容 寝屋川市萱島地区を事例として」
2. 水内俊雄(大阪市立大学文学研究科教授・地理学、COE 事業推進担当者)
「マイノリティ、周縁からみた戦前・戦後の大阪の空間と社会」
3. 青木秀男(都市社会学研究所所長)
「都市下層と < 権力 > と抵抗 大阪の野宿者世界から」

【討論者】 吉原直樹(東北大学)、浦野正樹(早稲田大学)

【司 会】 橋爪紳也・谷富夫(大阪市立大学)

(企画委員 山本かほり)

(2) シンポジウム(9月5日午後)

住宅政策と都市社会学 政策形成における都市社会学の可能性

【趣 旨】

都市社会学者は、高度経済成長期のコミュニティ施策をはじめ、さまざまな領域の政策提言に関与してきた。しかし、都市社会学に何ができるのか、という点で経験の蓄積・共有は必ずしも十分に行われていない。一方で、政策形成の現場では一見すると都市社会学への期待も大きいのが、その期待の中身は必ずしも明瞭ではない。そこで本シンポジウムでは、住宅政策を切り口として、政策形成の現場で都市社会学に何が期待されているのか、また何ができるのかについて検討したい。

社会学の外から都市社会学を再検討するという意味で、長く住宅政策の中核にある実務家(那珂氏)と、都市住宅政策に詳しい研究者(大江氏)の2名をお招きし、都市社会学との対話を試みていただく。参加者それぞれが、社会学界の外へと視界を開き、外からの視線を意識することによって、都市社会学の研究テーマが少しでも拡張するならば(新たな研究テーマのヒントが得られれば)、このシンポジウムの目的は十分に達せられたことになるだろう。

【報 告】(タイトルはすべて仮題)

1. 松本 康(東京都立大学)
「構造転換下における都市居住 都市社会学の見てこなかったもの」
2. 那珂 正(都市基盤整備公団・副総裁)
「都市住宅政策と都市社会学 政策現場からの報告と都市社会学への期待」
3. 大江守之(慶應義塾大学)
「都市・住宅政策論と都市社会学との接点」

【コメンテーター】 西山八重子(金城学院大学)、有末 賢(慶應義塾大学)

【司会/コーディネーター】 野沢慎司(明治学院大学)、高木恒一(立教大学)

(企画委員 高木恒一)

4. 編集委員会報告と『日本都市社会学会年報』23号(2005年発行)

自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会報告：

編集委員会は、2003年9月7日(第1回)、10月12日(第2回)、12月6日(第3回)の計3回開かれまして、『年報』第22号は、9月の第22回大会(大阪市立大学)で会員の皆様に配布する予定です。

今回の年報では、昨年の第21回大会で開催されたシンポジウム「都市と環境 サステナビリティとコミュニティ」を特集します。報告者の論文、討論者のコメント論文のほか、当日の司会者にも解題を執筆いただいております。

その他、例年どおり、自由投稿論文、研究ノート、書評論文、書評などが掲載される予定で、目下、編集作業を行っていますが、最終工程の編集と印刷は、今回からハーベスト社に委託して進めることになりました。より美しく読みやすい年報をお届けできるように努力したいと思っています。ご期待下さい。

最後に、『年報』に関するご意見、ご要望がありましたら、お気軽に明星大学の編集委員会事務局までご連絡下さいますようお願いいたします。

『日本都市社会学会年報』23号(2005年発行)自由投稿論文・研究ノートの募集：

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』23号(2005年発行)に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』22号や『会員名簿』に掲載されている編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2004年11月末日までに編集委員会事務局までお送り下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

〒191-8506
東京都日野市程久保2-1-1
明星大学 人文学部 人間社会学科 渡戸研究室 気付
日本都市社会学会編集委員会事務局
電話・FAX 042-591-9238(渡戸研究室直通)
e-mail watado@soci.meisei-u.ac.jp

(常任理事 渡戸一郎)

5. 日本都市社会学会公式ホームページの正式公開について

東京都立大学のWWWサーバに置かれ、しばらくの間試験運用しておりました都市社会学会のホームページ(2003年7月25日発行の学会ニュースNo.65で既報)が、国立情報学研究所(NII)のサーバへの移転手続きを完了し、2004年1月7日、正式に公開されました。URLは、以下の通りです。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/urbansocio/>

アクセスしてご覧いただくと共に、会員の皆さんの大学/学部/研究室/個人のホームページにリンクを張っていただければ幸いです。より充実したページにしていきたいと思っておりますので、コンテンツに関するご感想やご希望、アイデアなどがありましたら、ぜひお聞かせ下さい。

なお、ホームページの制作は瀬戸寿一氏(東京都立大学大学院都市科学研究科修士課程)が、その後のメンテナンスは石渡雄介氏(同大学院博士課程)が、共にボランティアであたって下さいました。記して感謝の意を表します。

6. 訃報

横浜市立大学名誉教授の越智昇先生が、さる2月1日ご逝去されました。享年79歳。越智先生は、町内会やボランティアアソシエーションの研究で斯界に多大な貢献をされ、本学会では創設時の理事として、また近年では学会賞選考委員としてもご尽力いただきました。葬儀にあたり、本学会として献花し、学会を代表して玉野常任理事が参列いたしました。越智先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。合掌。

(日本都市社会学会会長 松本 康)

次号のニュースで、追悼文を掲載する予定です。

学会事務局より

次号の学会ニュース第68号は、「第22回大会特集号」として、大会プログラム、2本のシンポジウムのより詳細な紹介、自由報告要旨、会場案内などを中心に編集し、7月下旬頃にお届けする予定です。

大阪市立大学杉本キャンパスの交通案内図



大会会場の案内図

